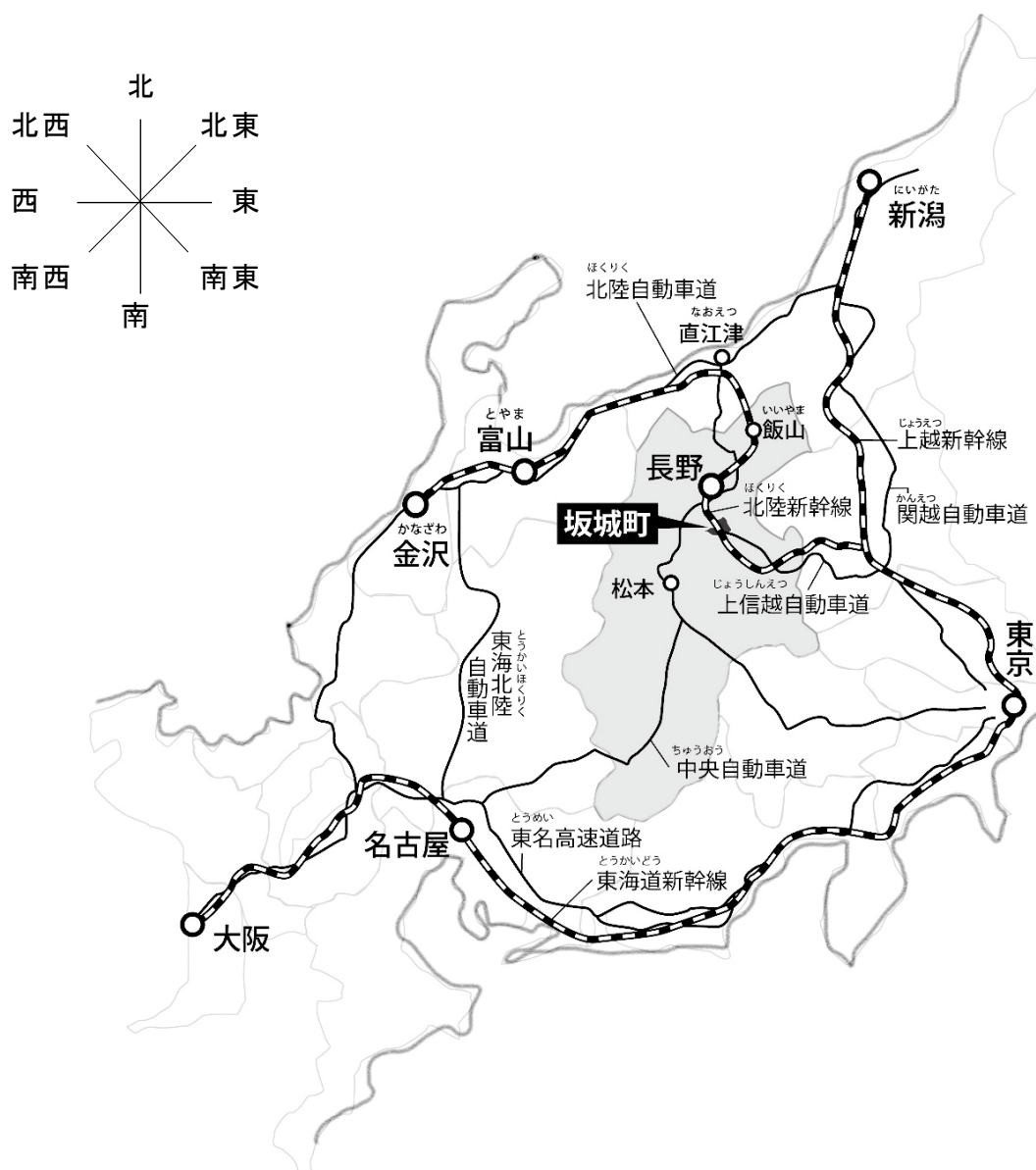


I わたしたちの町

1 町の位置

(1) 坂城町の位置

わたしたちの住んでいる坂城町は、長野県の北東の方角に位置し、県庁のある長野市までは直線にして約21 km、松本市までは約31 km離れています。下の地図からもわかるように、東京、名古屋、大阪などへも高速自動車道や新幹線を利用して比較的早く行き来することができます。このように大都市への交通の便がよいことが町の産業の発展を支えています。

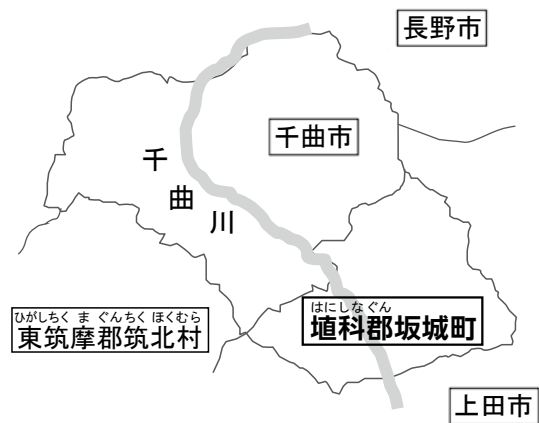


坂城～名古屋
車で約3時間

坂城～東京
車で約2時間30分
新幹線で約1時間30分

(2) 坂城町と周りの市町村

坂城町の北側は千曲市〈2003（平成15）年9月に更埴市、戸倉町、上山田町が合併〉、南側と東側は上田市と接しています。坂城町はこれらの周りの地域と協力し合うとともに、長野地域と上田地域を結ぶ場所としても重要な役割を担っています。



(3) 町の交通

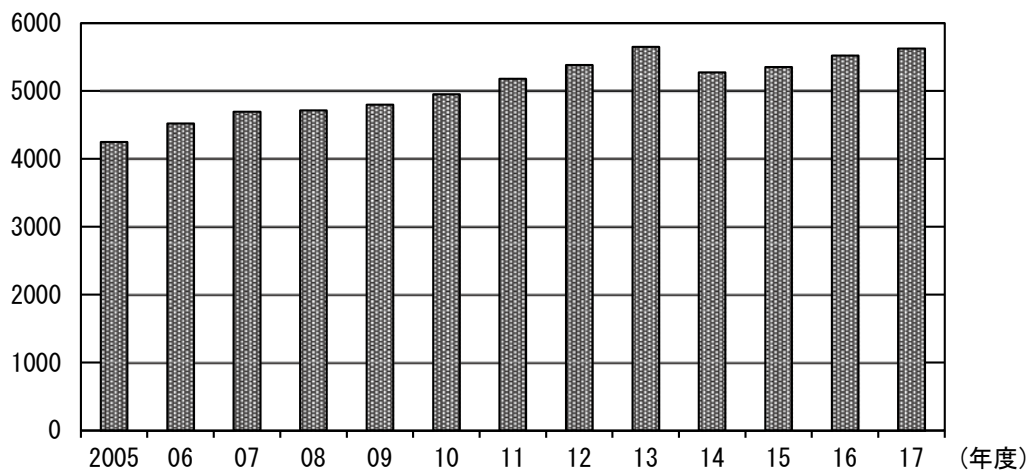
表グラビアの地図を見ると、千曲川に沿って東側を国道18号線としなの鉄道が、西側を県道長野-上田線が通っています。しなの鉄道の町内にある駅は、以前は坂城駅だけでしたが、1999（平成11）年にテクノさかき駅ができたので、さらに便利になりました。また、新しい交通路として、東の山々の中や山々に沿って、北陸新幹線と上信越自動車道が開通しました。

坂城インターチェンジは、1日におよそ5000～6000台の車が通行し（2011～2017年度）、坂城町だけでなく周りの市町村の人たちも利用しています。出口からの道路は坂城インターチェンジから国道18号線まで、県道坂城インター線としてつながっています。この先の道路は千曲川をわたり、やがて国道18号上田・篠ノ井バイパス線と接続される予定になっています。



上信越自動車道

(台) 坂城インターチェンジを利用した車の台数（1日あたり）



(「東日本高速道路関東支社の資料」から作成)

町内の各地区をつなぐ交通手段として、町の循環バスが運行されています。坂城地区→中之条地区→南条地区→村上地区を回る「北まわり便」と、村上地区→南条地区→中之条地区→坂城地区を回る「南まわり便」があり、上田便として、上田市「塩尻」「下秋和」「信州上田医療センター」へ向かうバスもあります。

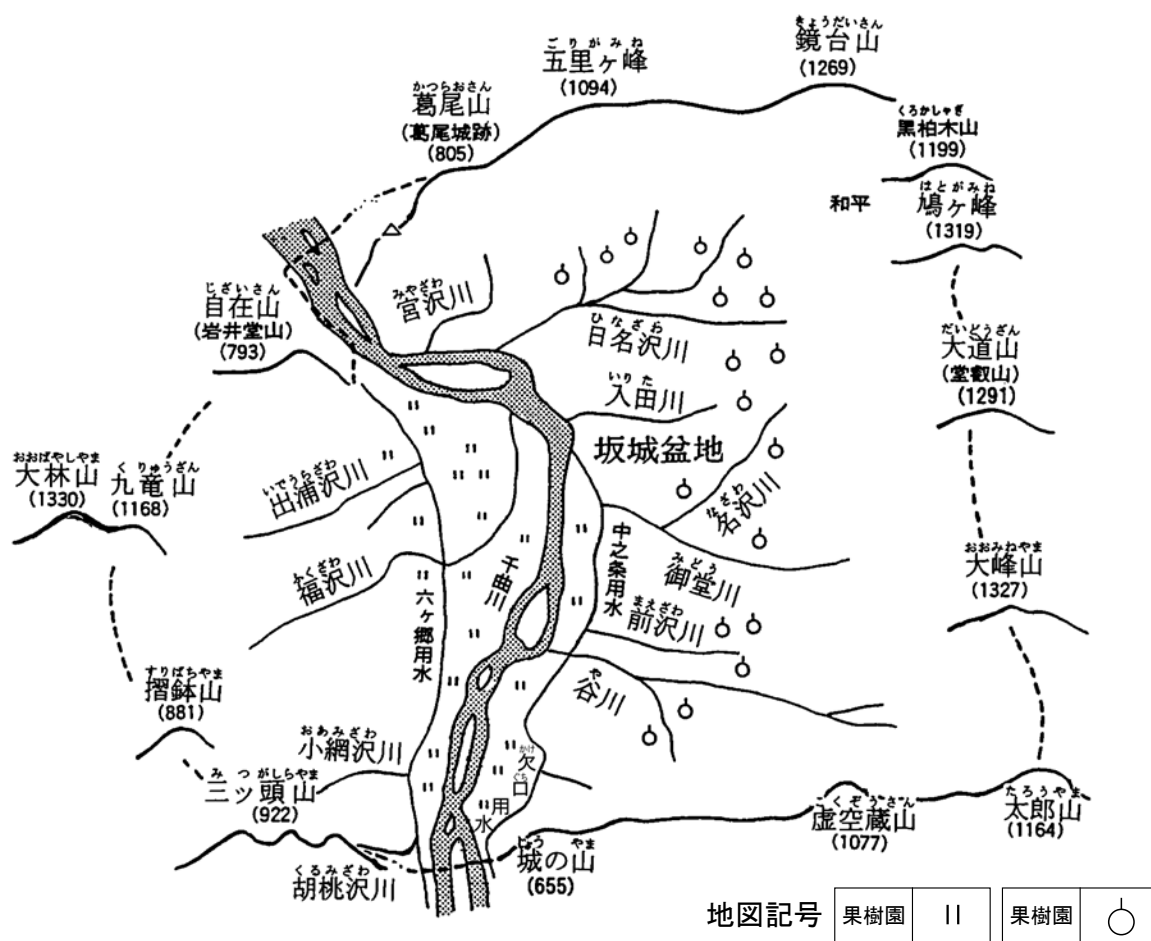
千曲川には5つの橋（鼠橋、大望橋、坂城大橋、昭和橋、笄橋）がかけられていて、町の東西をつないでいます。



坂城大橋

(4) 町の地形

坂城町は多くの山に囲まれた小さな盆地（坂城盆地）で、中央を南北に千曲川が流れています。最高地点は大峰山で標高1327m、最低地点は苅屋原の千曲川の底で標高383mですから、その差は940m以上にもなります。高い山々からは、谷川、御堂川、福沢川など、いくつか川が谷をつくって大きな千曲川に流れこみ、上流から運んだ土砂でおうぎ形の傾斜地（扇状地）をつくっています。



坂城町のおもな山・川と農作物

千曲川^{う がん}右岸の坂城、中之条、南条の各地区には扇状地^{はったつ}が発達し、古くから畑や集落が発展しました。今は日当たりと水はけのよさを利用して、りんごやぶどう、ワインぶどうなどの果樹栽培が盛んです。



右岸の果樹園

千曲川^{さ がん}左岸の村上地区では、扇状地があまり発達していません。千曲川の水が洗い流してしまったためです。千曲川の氾濫原^{はんらんげん}には、古くから川が土砂を両わきに押しよせてできる自然堤防^{し ぜんていぼう}があります。それでも千曲川は洪水をくり返し、人々を悩ませました。今はしっかりした人工の堤防^{りよう お}がつくられていて安定しています。こうした千曲川沿いの



左岸の水田

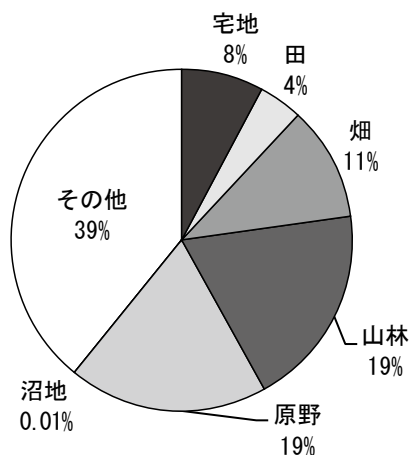
の平らな土地は、肥えた土と豊かな水を利用して水田が広がっています。かつてはハウスでの花き栽培も広く行われていました。

坂城町では昔から千曲川の水を農業や生活用水に利用してきました。欠口用水や六ヶ郷用水などの用水路は、江戸時代以前からの人々の努力によりつくられたものです。

(5) 町の土地利用

坂城町は、下の左のグラフのように、総面積^{そうめんせき}の約75%が千曲川河川区域と森林で、自然豊かな町です。残りの土地は宅地、田、畑に利用され、田より畑の方が多くが特徴^{とくちょう}です。しかし、下の右のグラフに見られるように、最近では田畑の耕作面積は減る傾向にあります。それは、主に、農業をする人が減って、田畑が住宅地や工業用地にかわってきたからです。

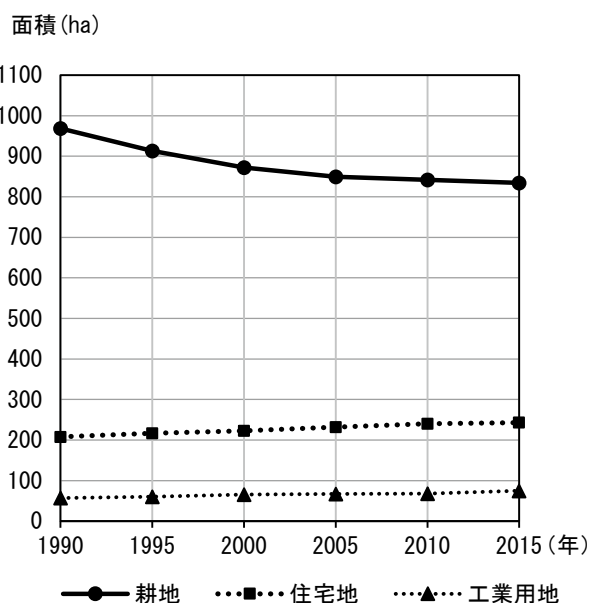
坂城町の土地利用（2019年）
（総面積5364ha）



土地総面積 5364ha の中で、「その他 39%」にあたる部分は、千曲川・道路・公園などの面積です。

（『坂城町統計書』から作成）

坂城町の土地面積の移り変わり



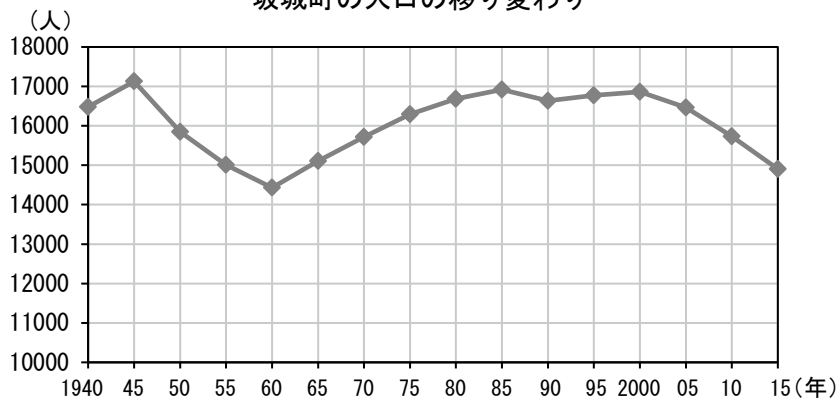
（『坂城町統計書』から作成）

2 町の人口

(1) 人口の移り変わり

坂城町の人口は、1960（昭和35）年に、村上村が坂城町に編入合併してから1985（昭和60）年までは増え続け、2000（平成12）年からは減りぎみとなっています。町役場が2015（平成27）年に町の住民や町外に引っ越した人などへア

坂城町の人口の移り変わり



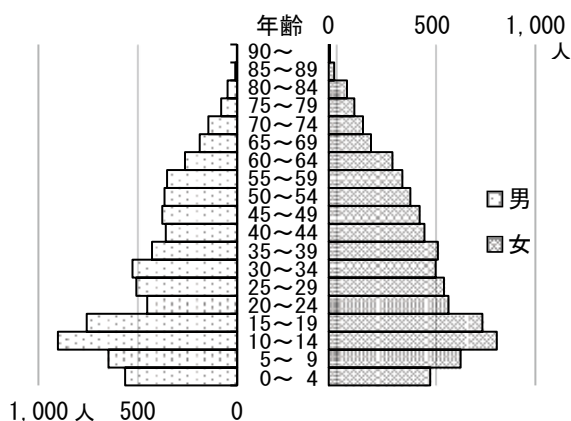
（『坂城町統計書』から作成）

ンケートをとったところ、人口の流出を減らし、流入を増やすためには、「坂城町で働きたいと思える仕事や機会をつくる」「町の人々が希望する出産や子育てができる環境をつくる」「移住や定住をうながし新しい人の流れをつくる」「一生住み続けたい地域をつくる」ことなどが大切であることがわかってきました。

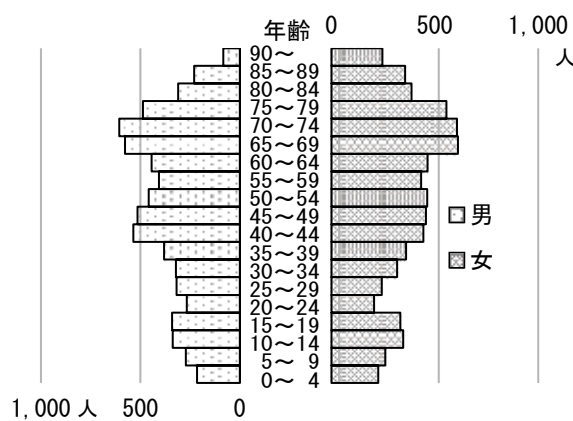
(2) 年齢別人口の移り変わり

1960（昭和35）年と2018（平成30）年の年齢別人口のグラフを比べてみましょう。子どもの数が減り、高齢の人の数が増えていることがわかります。

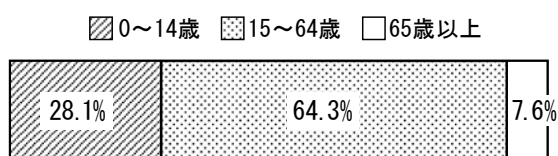
1960年 総人口 14,430人



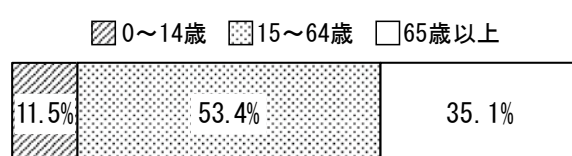
2018年 総人口 14,470人



1960年 年齢3区分別の割合



2018年 年齢3区分別の割合



（『坂城町統計書』から作成）

（『坂城町統計書』から作成）

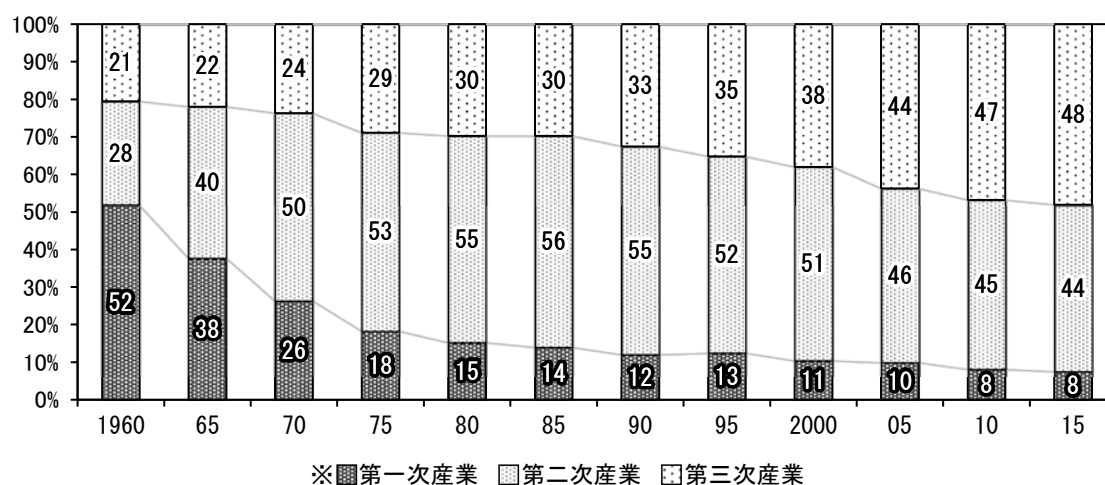
(3) 産業別人口割合の移り変わり

下のグラフは坂城町に住む人がどんな産業の仕事をしているのかを表したグラフです。坂城町では、農業や林業など第一次産業にたずさわる人が、1960（昭和35）年ごろは、半数以上を占めていましたが、2015（平成27）年には全体の10分の1以下となりました。

それとは反対に、工場で働く人の割合が増え、第二次産業につく人が1970（昭和45）年には全体の半数以上になりましたが、1985（昭和60）年をピークに減ってきています。

商業、医療、福祉、飲食業、教育など第三次産業の仕事につく人の割合は年々増えています。

産業別人口割合の移り変わり



（『坂城町統計書』から作成）

※

【第一次産業】

原材料や食料などの生産にかかわる産業（農業・林業・水産業・牧畜業など）

【第二次産業】

製造・加工などを主とする産業（工業・建設業・鉱業など）

【第三次産業】

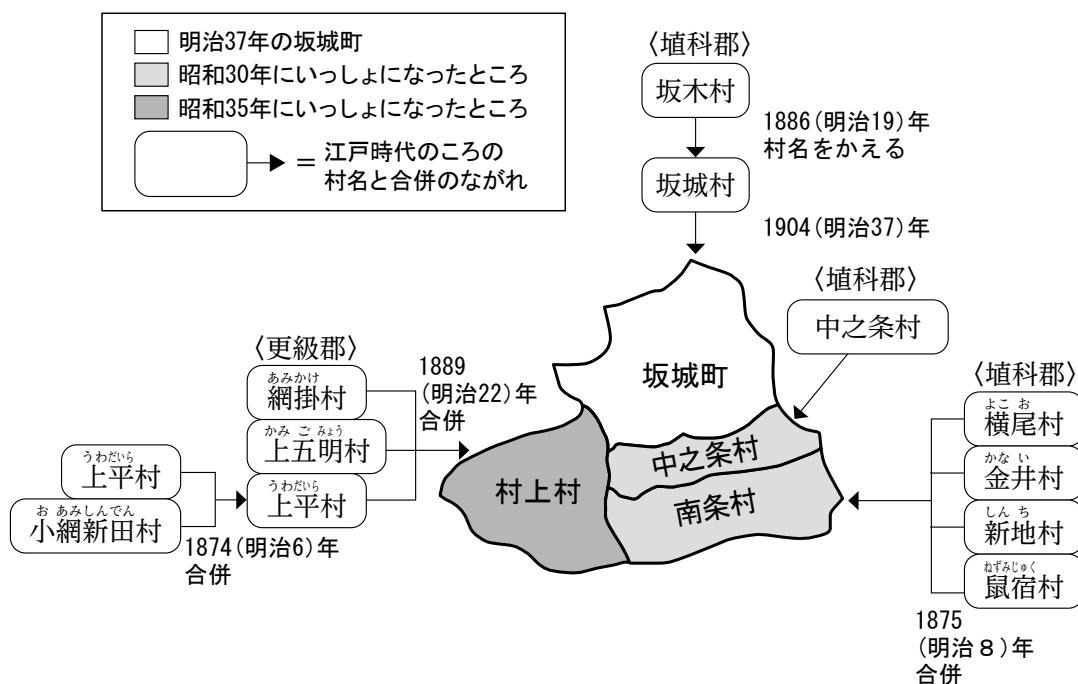
第一次・第二次産業以外の産業（商業・運輸通信業・サービス業・金融業など）

3 町の誕生

(1) 町の合併

下の図のように、坂城町は明治の初めまでは10村に分かれていました。明治時代に合併が進み、1町3村になりました。その後しばらく合併はありませんでしたが、1955（昭和30）年に坂城町と中之条村、南条村が合併して新しい坂城町が生まれました。さらに、1960（昭和35）年に村上村が編入合併して、現在の坂城町になりました。

坂城町の合併の様子



(2) 町のシンボル

① 町章



町章は、1955（昭和30）年に新しい坂城町を記念して、デザインを募集した中から選ばれました。円は「和」を表し、中央の線は「はばたくつばさ」を表しています。また、「サ・カ・キ」の3文字がデザインされています。3文字を探してみましょう。

町の花木、町花、町木は、1985（昭和60）年に決められました。町の花木のりんご、町花のばらは、ともに坂城の代表的な特産品です。町木のえのきは太木に育つので、昔から旅人の目

じるしとして街道のわきなどに植えられてきました。かつて苧屋原には14本ものえのきがあったそうです。今は苧屋原ミニパークの周りに新しいえのきが育っています。

② 町の花木「りんご」



③ 町花「ばら」



④ 町木「えのき」



1959（昭和 34）年ころの苧屋原横吹と
えのき並木（中沢巳木氏所蔵）



現在の苧屋原ミニパークのえのき

2011（平成 23）年には、町の特産品であるねずみ大根をモデルにしたマスコットキャラクターが誕生し、募集した名前の中から『ねずこん』が選ばれました。『ねずこん』は、町のいろいろなイベントで活躍しています。

また、2013（平成 25）年には、坂城町文化協会が創立 30 周年を記念して、「坂城町の歌」の制作を決め、2014（平成 26）年に、小学生が作詞した「ねずこんの歌」とともに発表され、様々な機会に歌われています。



ねずこん

坂城町の歌

作詞 朝倉 修
作曲 安藤由布樹

一番

山並み晴れて 雲流れ
香りあふれる 薔薇の花
光あふれる ふるさとは
明日へ架ける 夢がある
ああうるわしき 坂城町
生きる歓び 描くまち

二番

清き流れの 千曲川
稲穂の波に 野の実り
恵みあふれる ふるさとは
暮らし讃える 風がある
あたたかましき 坂城町
豊かな未来 拓くまち

三番

古き社よ 城跡よ
神楽の舞も 華やかに
笑顔あふれる ふるさとは
心の絆 愛がある
ああほこらしき 坂城町
幸せ共に 創るまち